1－5　北海道周辺の最近の地震活動（1978年12月－1979年1月）

Recent Seismic Activity in and Around Hokkaido
(1978 Dec.-1979 Jan.)

北海道大学理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

この期間の地震活動はかなり活発であった。1978年12月6日には国後水道付近で稍深発の大地震があり，多数の余震も観測された。[1] また，1978年10月下旬から発生し始めた函館付近の群発地震活動は，1979年1月になって再び活動が活発化してきたが，これに関する詳細は後の報告にゆずる。[2] 第1図に，1979年1月の震央分布を示す。国後水道ではまだ余震活動が続いているのが認められる。また，鵡川付近とえりも南東沖に密集している地震は群発地震活動によるものである。

1月13日から18日にかけて，鵡川付近に震央をもつ地震が多発した。最大の地震は14日01時37分に発生したM4.3のもので苫小牧で震度Ⅰであった。この地震には明白な前震活動が認められたのに対して，余震はきわめて少なかったのが特徴である。第2図（Ａ）に発生時系列を示すが全体としては群発型の活動というべきものであろう。この周辺の最近の地震活動をみると，月に2～3個ではあるが比較的定常的に発生していて群発地震になったものはない。これらはいずれも微小地震で有感地震になったものもない。最近20年間で，鵡川付近の局発地震としては1962年4月29日（震度Ⅰ），1964年6月30日（震度Ⅱが2回）の計3回が知られているだけである。

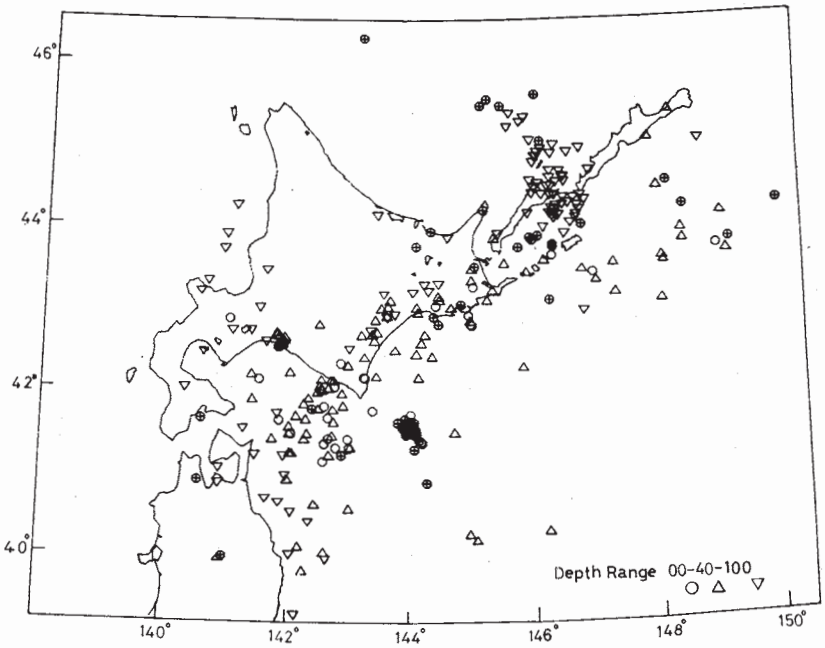
1月19日から24日にかけて，えりも岬南東沖にも地震が多発した。この活動様式も鵡川群発地震活動ときわめて似ているのが注目される（第3図（Ａ））。最大の地震は19日20時56分に発生したM5.4のもので広尾，釧路で震度Ⅰであった。この付近では1976年8月に地震が多かったがその後はほぼ定常的な活動が続いた（第3図（Ｃ））。この地域は1952年および1968年の十勝沖地震の震源域に近いので，地震活動度のみでなく，地震発生様式についても注目しておく必要がある。

（本谷　義信）

参　考　文　献

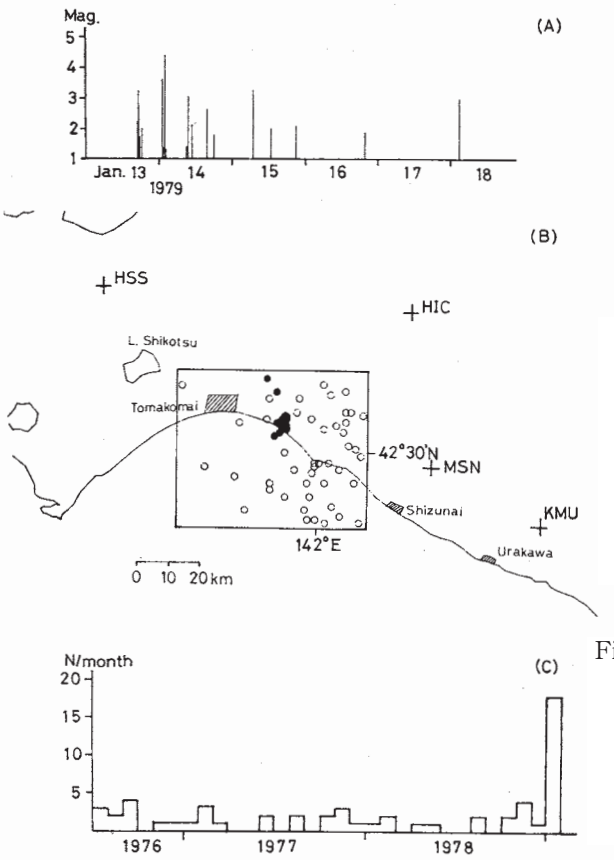
1）北大理学部：1978年12月6日国後水道付近の稍深発大地震（M7.7），連絡会報，**22**（1979），19－21.

2）北大理学部：1978年10月より始まった函館付近の群発地震活動，地震予知連絡会報，（投稿予定）．



第1図　北海道とその周辺の震央分布（1979年1月）

Fig. 1 Distribution of earthquakes in and around Hokkaido (1979 January).



第2図　鵡川付近の地震活動

（A）地震発生時系列

（B）震央分布　○は1976年7月～1978年12月，h＜100km

●は1979年1月，h＜100km

（C）月別地震回数

Fig. 2 Seismic Activity near Mukawa.

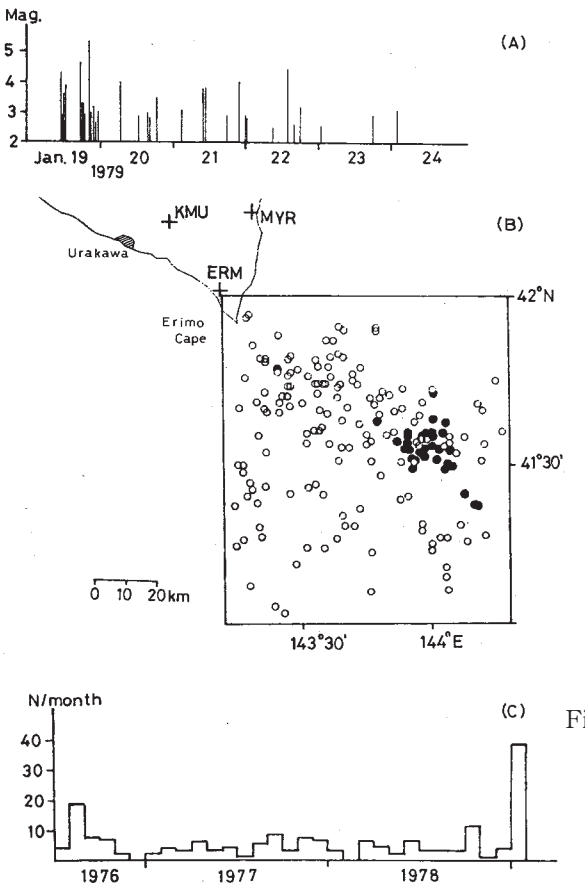
(A) Time sequence of earthquakes

(B) Epicenter distribution

○1976 July − 1978 Dec., h<100 km

●1979 Jan., h<100km

(C) Monthly frequency of earthquakes



第３図　えりも岬南東沖の地震活動
（A）地震発生時系列
（B）震央分布　○は 1976 年 7 月～
1978 年 12 月
●は 1979 年 1 月
(C) 月別地震回数

Fig. 2　Seismic Activity SE off Erimo cape.
(A)　Time sequence of earthquakes
(B)　Epicenter distribution of earthquakes
○1976 July － 1978 Dec.　●1979 Jan.
(C)　Monthly frequency of earthquakes